

母塾 VOI-3

2018・9・18



新小岩幼稚園・未就園児クラス

アドバイザー

猪之鼻 晴子

『 先取りをしないということ 』

新小岩幼稚園に子どもたちを通わせて、20年が経とうとしています。その間でたくさんの先生方に多くのことを教えていただきました。その中で一番私が身に染みていることは「先取りをしない」ということです。

子どもは毎日が初めてのことに囲まれています。私たち大人はたくさんの経験があります。子どもがどうしたいのか？どうなるか？だいたい予想して助言したくなります。「転ばないようにね」から始まり、「そんな言い方したら友だちとケンカになるよ」「忘れ物ないようにね」というのはついつい口ぐせになっています。子どもが失敗しないように、母心から先回りして障害を取り除きたくります。

長男の年長の合宿の時に何週間も前から「ちゃんと髪の毛も自分で洗うのよ」な何人かのママたちが予行演習のように子どもに準備させていました。先生が口頭で「明日は水筒を持ってきてね」と子どもたちに伝えると必ずママたちの間で電話があり「明日水筒持っていくのよ」と教えてくれました。ランドセルも早めを買って「もう小学校へ上がるんだから」と言い聞かせていました。そういう時先生から「先取りはやめてください」とお話しされました。「今子どもたちは自分で学んでいる真っ最中なのです」と。

子どもたちは初めてのことに毎日出会いながら失敗をします。でもそれはその子の失敗であって、親のものではありません。私は今も小学校や中学校の先生からお電話があり、子どものケンカや忘れ物の指摘を受けて冷や汗をかいています。が、「私が怒られているみたい」と不本意に思いながら、私のケンカじゃない、私の忘れ物じゃない、と自分に言い聞かせています。

子どもは失敗しながらいろいろなものを自分のものにしていきます。それを先回りして取り除くことは、貴重な体験を奪ってしまっているということです。忘れ物をして不自由な思いをする、ケンカをしていやな思いをする、恥をかく、そうやってひとつひとつ自分のものにしてる真っ最中なのです。自分で体験したことは誰にも奪われないその子の財産になります。親は心配しながらも、その子を信じて「いってらっしゃい」と送り出すのが役目なのだな。と思いつつ、まだまだ夕方の電話にヒヤッとしています。